

2017 年度 PC 実技第 1 問

／それでは、ソーシャルワークとは何か、その意味、役割、視点についての講義を始めたいと思います。

今日は、前回ソーシャルワークの視点について、お話していた、その続きになります。

今日は2つめのソーシャルワークの視点になりますが、資料の3番のところですね。3番ソーシャルワーク視点(2)ですね。個人と社会環境への両方への視点を持つ、というところ

です。
①のところですね、問題や困難を抱える個人と、問題や困難を生み出す社会環境、というふうに書いてありますが、そもそも問題や困難を抱える個人ということで、個人、どのような、まあその個人が問題を抱えているのか。その問題の中身は何か。何に困っているのか。そういったことをですね、クローズアップして、そこに焦点をあてるということは、一般的に想像がしやすい、イメージがしやすいことではないかなあというふうに、思います。

しかし、ここで大事なことはですね、その問題や困難を個人に、生じさせているその社会環境、ここに、目を向けてみようというところなんですね。そこに目を向けるというところが、ソーシャルワークの視点の、非常にポイントになるところでなかろうかというふうに、思います。

じゃあ問題を生み出す困難や社会環境というのは、どんなものを指しているのかということですね。

これはもちろん、この困難を抱えている個人が取り巻いている、人であるとか、場所であるとか、そういう人が住んでいる地域であるとか、そういった社会環境は、まイメージがつくと思います。

さらにもっと大きくとらえるとですね、その個人が生活をしている社会、文化、それから、世の中の世論といいますか、意識といいますか、社会全体が持っている価値観ですね。社会通念みたいなものではないでしょうか。そういったものも社会環境というふうにいえると思います。こういった社会環境が、何がどう影響してこの問題と結びついているのか。

そこを見ていく視点というのは、このソーシャルワークの特徴的な考えでないかな、というふうにいえるわけですね。

そして、この②。

環境への焦点化、というところですけども、その問題を抱えた個人にですね、どのような環境がどういうふうに関わって、何が影響して、そしてその個人の何を疎外しているのか、というふうですね、環境との接点の中で、見極めていくというところは、非常に重要になってきます。

もちろん、そのソーシャルワークの使って、技術を使って、解決をしていくと考えたとき、

その個人にとって、どのような環境になれば、どのような状況がまわりに作れば、その問題は解決していくのか。どのような状況になれば、その人は生きやすいのか。というようなですね、そういった状況、環境を作るように調整していくと、いうふうにですね、その解決の段階、問題の見極めもそうですが、解決の、そのその道標といいますか、方向性ですらその～環境に視点をもっていく。ここも非常に重要になってくるというわけですね。

この3番、③のところですね。

個人が抱える生活問題の背景には、社会構造上の問題がある、というふうに書いておりますが、これは非常に事例を用いることで分かりやすく理解できるかなというふうに思います。例えば過重労働によってですね、例えば病気になってしまうとか。最近のニュースでは、その過労死とかですね、そういった、労働災害に関するようなトピックスがですね、語られることが多いんですけども、この過重労働の背景にはですね、労働環境が影響しているというふうにいわれます。この労働環境というと、例えば超過勤務であるとか、時間外勤務ですね。そういったものが非常に過密にたくさんですね、のしかかってきて、それで結果的には心身のね、調子を崩してしまうと、いうふうなことがいえるんですが、もっと大きな背景を見ていくと、そもそもこの労働環境の背景には、企業間のですね、なんとかこの業績をあげないといけない。そして、企業間競争を勝ち抜かなければいけないという会社としての使命、会社としての成果、そういったものが前提としてあります。

それがかえって影響してですね、そこを突き詰めるがために、労働環境が非常に過重になってくる。そして結果的にはそこで働く労働者にしわ寄せ、影響がやってくると、そういうことがメカニズムとしては、いえるのではないかと思います。